



三富平地林で清々しい空気を  
吸ってみませんか！

## 令和3年度のイベントについて

9月まで続いた緊急事態宣言が明けたことで、感染を再拡大させない徹底した対策をとりつつ、令和3年度のイベントが開催できるよう、準備を進めているところです。

第1弾として、「三富地域の平地林散策と「さといも」収穫体験」を11月14日(日)に実施します。武蔵野の面影を残す三富地域の平地林の散策と、日本農業遺産認定の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」で育てられた、埼玉県が全国に誇る「さといも」の収穫体験を実施します。(下記参照)

第2弾として、「第15回さんどめの木をいかす展」を11月20日(土)、21日(日)に開催します。昨年に引き続き、会場内の密を避けるため、ワークショップ(事前申込制)をメインとしています。自分で制作した作品を使い、三富の平地林の木々に思いをは馳せてはいかがでしょうか。(詳細はチラシ参照)

これ以降も、落ち葉掃き体験なども計画しておりますので、「さんどめねっと」のホームページのチェックをお願いします。

## 三富地域の平地林散策と「さといも」収穫体験について

武蔵野の面影を残す三富地域の平地林(川越市内)の散策と、350年以上の開拓当初から続けられている日本農業遺産認定の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」で育てられた、埼玉県が全国に誇る「さといも」の収穫体験をしてみませんか。

- 日時 11月14日(日) ※雨天の場合は中止します。  
9:00~11:30(受付8:30)
- 集合 森のさんぽ道駐車場(川越南文化会館「ジョイフル」奥)  
(川越市今福1295-2)
- 募集人員 30名程度 ※申し込み多数の場合は抽選
- 負担金 500円/人  
(負担金500円で「さといも」が一株収穫できます。)  
※小学生以下は無料ですが、「さといも」はありません。



一株からこんなに！収穫できるかも？

### ■申し込み方法

11月5日(金)までに、希望者全員の氏名、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス(アドレスを持っている方のみ)を明記し、メール、FAX、ハガキにてお問合せ先まで。ハガキは5日必着でお願いします。

※応募者全員に抽選の結果等を連絡しますので、住所、電話番号、メールアドレスを、保険加入のため生年月日を、必ずお知らせください。

「メール」での情報提供を進めています。アドレスを事務局に登録お願いします。



問い合わせ先：川越農林振興センター管理部・三富農業・地域支援担当

〒350-1124川越市新宿町1-11-17

TEL:049-242-1808 FAX:049-243-7233

e-mail:r4218103@pref.saitama.lg.jp



# カシノナガキクイムシによるナラ枯れについて

令和元年に県内で初めてカシノナガキクイムシによるナラ枯れが確認されてから、2年経過し、確実に被害地が拡大しています。今年、夏なのにコナラなどの葉が紅葉したように真っ赤になっているのを見た方も多いのではないでしょうか。

これは、カシノナガキクイムシが持ち込んだナラ菌が木の導管（水を吸い上げる管）を詰まらせるため、暑くなった夏、葉から水分が蒸散されるものの、生きていくのに必要な水分を幹の中から上げることができなくなり、葉が一気に萎れ、葉枯れするためです。

枯死した木は、カシノナガキクイムシが繁殖するのに適した状態となり、翌年には、一つの巣穴から100匹以上の成虫が出てくると言われています。

※カシノナガキクイムシに穿孔されても枯れない木もあります。このような木では繁殖が少ないと言われています。



紅葉したような  
真っ赤な葉枯れ

ナラ枯れ菌により枯死したコナラ  
(令和3年7月28日撮影)



赤いところが  
枯死しています

上空から見たナラ枯れの林の状況  
(令和3年10月6日撮影)

県では、被害地の情報収集、市町村への情報提供を進めており、市町では伐倒処理、被害を広げないためのシートによる被覆などの対策を始めています。

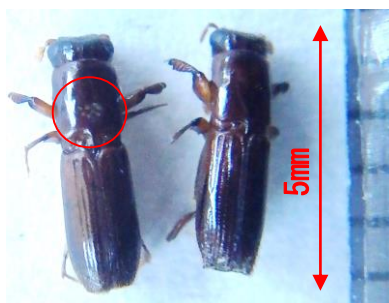
枯死木を見かけたら、枯れた枝が落ちてくる危険性がありますので近づかないでください。また、木の幹や切株を覆ったシートはカシノナガキクイムシを封じ込めるためのものですので剥がしたり破かないようお願いします。

このため、枯死した木は来年の梅雨明け前までに、伐倒し、伐倒した材はチップ化、薬剤による燻蒸等で殺虫する必要があります。さらに、伐根にも多くのカシノナガキクイムシが生育しており、飛散しないよう、ビニールなどで被覆する必要があります。

また、伐採処分できなかった枯死木から、羽化してくるカシノナガキクイムシをトラップなどで捕殺するなどし、個体密度を下げる対策が必要となります。



カシノナガキクイムシを封じ込めるためシート  
で覆われた幹(左)と切株(右)



カシノナガキクイムシの成虫  
(左)メス (右)オス  
※メスの背中の中円孔に  
ナラ菌を入れて運びます。

三富地域の主要な樹種で、伝統農法に用いる落ち葉堆肥の原料となる落ち葉に必要不可欠なコナラが被害にあっています。コナラの活用を継続していくためには、20年程度で伐採し、根株から芽吹きを促す、「萌芽更新」が重要です。しかし、樹齢40年を超え高齢化・大径化したコナラに萌芽更新は期待できません。また、毎年多くのどんぐりをつけるコナラですが、コナラが育つためには多くの光が必要で、薄暗い林内では育つことができず、ほとんどが枯れてしまいます。

カシノナガキクイムシの被害後も、三富地域の文化、景観を支える平地林を維持していくためにはコナラなどの生育状況を定期的に調査し、植栽するなどの救済策を講じる必要があります。

※カシノナガキクイムシによるナラ枯れについて詳しく知りたい方はこちらから。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/158166/naragarepannhuretto.pdf>

